

# 基本目標 1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

## 1 基本目標の2022年度の成果評価

### (1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
<b>① 基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か</b>	
まとめ	<p>基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人口減少社会と向き合う視点で「若者」が帰って来れる地域社会構築を基礎におきつつ、地域内循環の推進や農林業の振興、多様な働き方などの認識は妥当である。また、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を見据えた認識は妥当である。</li><li>・一方で、地域内経済循環の推進を重要としているが、その状況を表す指標が確立できていない。企業側の取り組みと共に消費者の意識への働きかけが求められるが、その為には現状と将来のあるべき姿を数値化、見える化して理解を広げる必要がある。一部の数値であっても、早い段階で指標が定期的に公開されるよう、尚一層の努力を望む。</li></ul>

評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
<b>② 取り組みの内容をどう評価するか</b>	
まとめ	<p>取り組みの内容は、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・インバウンドも含め旅行者がコロナ前に戻りつつあり、観光産業も景況感は上向きになってきている。リニア・三遠南信道のメリットを最大限活かすには、当地域における観光産業の充実発展は欠かせないが、人手不足への対応も含めて、更に取り組みを強化していくことが重要。</li></ul>

### (3) 進捗状況確認指標

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
<b>進捗状況確認指標、重要業績評価指標 (KPI)、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か</b>	
まとめ	<p>進捗状況確認指標、重要業績評価指標 (KPI)、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として、項目としては概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・Step 1 説明時において、目標値が累計で示されているのに、進捗数値は単年度となっていたり、作成の時点が違う資料について、互換性のある内容の表記が適切でなかったりする項目が散見していた。進捗状況確認指標は、行政評価を行う上で大変重要な指標であり、慎重な資料作成をお願いしたい。</li><li>・時点の違う資料についても、KPI については、最新の数値に統一をお願いしたい。</li><li>・最新の地域経済循環率、またはそれに類似する統計があれば指標に加えていくと良い。</li></ul>

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
<b>③ 実績を踏まえ 2023 年度の方角性・妥当性・社会的環境変化への適応状況</b>	
まとめ（基本目標）	<p>2023 年度の方角性・妥当性・社会的環境変化への適応状況等については、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、さまざまな KPI や指標により検証を行っているが、「魅力ある産業」を考えた時、RESAS 地域経済循環マップ（2018 年）から算出された飯田市の地域経済循環率 89.6%が全体を包含した重要な指標になっていると感じている。この指標を基盤として、農業、林業、商業、工業、観光等の業種や品目などの詳細、全体に対しての関連性などを紐づけしていくと、飯田市としての方向性が更に明確になってくると感じる。</li> <li>・ 環境文化都市を掲げる飯田市として、環境問題や SDGs への積極的な取り組みを行う企業が地域内で認められて、発展に繋がるような仕組みづくりを確立していくことが重要。</li> </ul>

## (2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	1-①	<b>地域産業の育成による高付加価値化</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ISO/IEC17025 試験所認定を受けたことにより、燃焼・耐火性試験の受託につながったこと、ReAMo プロジェクト事業への参画できたこと、南信州地域資源活用商品開発オープンイノベーションプラットフォーム構築事業 (OIP 事業) において、産官学民の関係者が地域資源をテーマに交流、連携する取り組みにつながったことなどは評価できる。</li><li>・ 更なる地域ブランドの情報発信、また地域資源の発掘に取り組まれない。</li><li>・ コロナ禍での状況を乗り越えられるような、農畜産物の高付加価値化や6次産業化など、多くの事業者が地域資源を活用した商品開発や販売に連携協働し取り組んでいけるような施策展開に期待する。</li></ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-②	<b>地域経済循環の推進</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 南信州地産地消推進協議会と連携し、「まちの八百屋システム」の仕組みづくりができたこと、地域製品の購入意向の実態を把握するため新たに地域消費推進調査を実施したことは評価できる。</li><li>・ 一方で、地域経済循環には消費者の行動も重要になるが、これらの取り組みは意識調査に留まっている。消費者への重要性を理解していただくための施策展開が必要。</li><li>・ 地域内経済を循環させるための一つの手法として、地域通貨 (デジタル) について検討されたい。</li></ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-③	<b>事業継続と新たなビジネスモデルの創出、事業再構築、起業家の育成</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 起業家ビジネスプランコンペティションは、新たな起業家・新事業の掘り起こしにつながっていること、事業承継に対する事業者の意識調査 (アンケート調査) を行ったことは評価できる。</li><li>・ 一方で、高齢の代表者が 30%以上を占めており、後継者不足など課題が山積みされている中、早急な施策の展開が必要。</li></ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-④	地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPI の指標となっている飯田産業技術大学の受講者数を伸ばしていること、デジタルものづくり工房「ファブスタ★」を利用し、操作講習、小中学校向けの体験講座を開催し、ものづくりの人材育成につなげていることは評価できる。</li> <li>・ワークライフバランス推進のためのセミナーの開催、KPI の指標となっている長野県の認証制度「職場いきいきアドバイスカンパニー認証企業数」を2社増加させたことは評価できる。</li> <li>・一方で、若い女性が一度転出してしまうと当地域へ戻ってこない傾向があると認識している。なぜ、そうした状況になってしまうのか、更にデータを深掘した分析が必要。</li> <li>・現在、ワークライフバランス推進に係る認定制度として、子育てに係る国の認定制度「くるみん」、女性活躍に係る国の認定制度「えるぼし」、長野県の認証制度「職場いきいきアドバイスカンパニー」等があるが、市内の事業所の状況を考えると少しハードルが高いように感じる。小規模な企業も取り組むことができ、それを市が支援できるような市独自の認定制度を検討していくことが必要。</li> <li>・「3大都市圏等からの移住就農を促すため」とあるが、今後の方向性として、ターゲットを3大都市圏に絞ることによる有効性をしっかり検証していくことが必要。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-⑤	地域に根差した農林業の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPI の指標となっている1日農業バイトマッチング件数を増加させていること、地形が急峻で路網整備ができず切捨て間伐となっている森林について、搬出間伐に転換することを目指し、架線集材の調査・検証を行ったことは評価できる。</li> <li>・「環境に配慮した農業研究プロジェクト」の立ち上げ、有機農業啓発映画の上映会の開催、学校・保育園給食に有機野菜を一部導入する試みの実施、市田柿生産農家への支援の取り組みは評価できる。</li> <li>・一方で、農林業従事者や技術者の育成、人材確保につながる施策（例えば資格取得の支援、幼少期の学習・体験活動）など、更なる取り組みが必要。</li> <li>・森林経営管理制度を推進する上で、令和3年度から複数年かけて順次、森林所有者等を対象に「意向調査」を実施していると認識している。森林を集約化、団地化していくためには、境界や所有者不明などの課題を解決していくことが必要。</li> <li>・竹林整備を推進するため、竹林を資源として考え、竹を原材料とした地域独自の製品化の可能性を検討されたい。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-⑥	<b>アフターコロナの観光産業の推進</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
<b>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか</b>		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において大きな影響を受けつつも、天龍峡や遠山郷などを中心として、観光産業推進に取り組まれたことは評価できる。</li> <li>・そらさんぽ天龍峡をどう活かすか、遊歩道や温泉交流館を活用した「クアオルト(保養地)」の研究に取り組んではどうか。(山形県上山市では、都市部の大企業の従業員が健康増進のため定期的に訪れている事例あり)</li> <li>・新たな旅行の形態として「アドベンチャーツーリズム」というものがあり、海外では一定程度浸透している。①自然に触れ合う、②文化交流をする、③ウオーキングやカヤックなど身体的アクティビティをする、この3項目のうち2つを満たしていればこの旅行形態に該当する。飯田下伊那地域を視野に入れ、研究に取り組んではどうか。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	1-⑦	<b>企業誘致、オフィス誘致の推進</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
<b>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか</b>		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・龍江インター産業団地計画地において、リニア発生土を活用(事業費軽減)した第2造成地及び周辺道路の整備が完了したこと、誘致促進に取り組んでいることは評価できる。</li> <li>・今後もリニア・三遠南信自動車道全通(主要道路網整備も含む)を見据えた、戦略的な企業誘致に期待したい。</li> <li>・今後の方向性として、企業誘致については、通常の広報に加え、人脈やネットなどあらゆる手段を駆使し取り組まれない。</li> </ul>	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
<b>実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況</b>		
まとめ(年度戦略)	<p>2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況等については、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナを始めとして環境が急変するかも知れない現状において、各年度戦略で言及した点について、真摯な対応を望む。</li> </ul>	